



いね。」 などと言う。あとで、したこと発表会をしてもよい。

## 【その2】

学級で話し合って、6年生のためにできそうなことを話し合ってみんなです。

- 例
- ・いっしょに給食を食べよう。
  - ・いっしょにそうじをしよう。
  - ・みんなで歌おう。
  - …など

☆子どもたちがその気にならなければなくていいです。とりあえず刺激を…。

次は、熊本の平野先生からの情報です。

### ◇「6年生を送る会に取り組む手順」について

- (1) 学校全体で6年生を送り出すという気持ちが大事だと思うので、必ず担任の先生方に「6年生を送る会」の意義を子ども達に話してもらうことから始まります。
- (2) 「自分の学年だったら6年生に対して何ができるのか」を子ども達に話し合わせ、それを児童会に出させます。
- (3) 児童会はそれをもとに、原案を作ります。その際、会を運営する上で必要と感じるものについては児童会で付け加えていきます。  
※例えば…6年生にメッセージカードを送る。体育館のステージを飾り付ける。くす玉をつくる。プレゼントをおくる。全校ゲームを考える等々です。
- (4) 代表委員会にかけ、どこの学年あるいはクラスが何をするのかを決定していきます。

クラスや学年での出し物については、そのクラス、学年で話し合ってもらい、条件として「6年生との思い出や頑張りなどを紹介できる内容のもの」ということで学級会で話し合って決めてもらうことにしています。

---

## 2 旬の情報 その2 ～お別れ会

---

こちらは平野先生の情報から。

◇学年(学級)お別れ会の内容(プログラム)、お別れ会の開催に向けての留意点などを紹介していただきました。

お別れ会については、学級の最後のまとめ、学級、仲間とのお別れという意味合いを強く出す会にしたいと思っています。ただ、楽しければいいというのではなく、

しっかりした目当てをもった会であって欲しいと願います。学級であれば学級を振り返り、仲間だった友達のことや一年間の様々な出来事などが思い出されるような内容のものがいいと思います。そのためには、提案理由に「学級の最後のまとめ」「学級、仲間とのお別れ」という意味合いが強く出ているようなものであることが大事だと思います。

今までやっておもしろかった例としては・・・

ア 学級振り返りグループ対抗すごろく大会

イ 学級の思い出大声大会

…これは、屋上から一人ずつ、大声で叫びます。例えば〇〇くん、◆◆してくれてありがとう！とか、◇◇してごめんなさい！とか 〇〇最高！とか、短く自分の想いを叫ぶのです。

ウ 感謝状渡し

…今までクラスのために頑張ってきた係やグループ、個人などへ感謝状を渡す

エ 学級のエピソードをいれた劇発表など

---

### 3 旬の情報 その3 ～1年間の振り返り

---

次は、鳥取の太田先生からの情報です。太田先生からは雑誌の原稿という形で送られてきましたので、内容をかいつまんでお知らせします。

#### ◇年間の学級生活を振り返る

年間の学級生活を振り返る時期は3学期、とりわけ2月、3月ということになるだろう。この時期は終わりが見えてきて、担任としても様々な思いが頭をよぎる。一年間を振り返って感動にひたったり、感傷にひたったり…。子どもたちのことが今まで以上にいとおしく思えてきたり…。

#### ◇日常的に振り返る

一年間の終わりになったからといって、『もうすぐ終わりだから振り返りましょう』では、効果が上がらない。まずは日常的な振り返りのシステムを大切にしたい。仲間関係の振り返りであれば、帰りの会で『今日のスター』や『今日の宝物』などのネーミングで一日の振り返りをしたり、日記指導において、ときには学級生活の振り返りをテーマにしたりする。定期的に『友だちのよいところみつけ』をすることもはずせない。日常的な小さな振り返りの積み重ねが、プラス思考を生み、温かい学級をつくるのである。また、普段から教師が子どもたちを見つめ、積極的に評価していくことはもちろんのこと、エピソードを交えてわかりやすく話したり、終わりを示して、見通しを持って活動できるようにしたりすることも大切である。

#### ◇自他の成長を振り返る

社会科などの学習活動のまとめの活動として、新聞作りをすることがある。いい新聞を作るためには取材や調査、情報の整理など、対象についてよく見て考え、正しく理解する必要がある。そこで、友だちについて積極的に調べる機会があってもよいのではないかと考え、その手法を取り入れたのが、「友だち新聞」づくりである。

ア 全員が誰かの新聞を作り、全員が誰かに新聞を作ってもらうように、取材相手を決める。

イ 一定の期間を定め、帰りの会のときに取材相手の一日を振り返る時間を作る。

ウ 取材のための時間を取り、本人や友だちにインタビューして、話題を集める。

エ 新聞にまとめる。

初めのうちは、友だちのことを意外に見ていないことに気づく。しかし、取材していくうちに友だちの知らなかったよさや、がんばりを知ることができる。友だち同士の関わりがある程度できている学級の方が意欲的に取り組めるので、一年間の終わりに振り返る活動として取り入れてみてはどうだろう。この活動はグループで取り組むこともできる。いろいろなやり方の工夫で、さらに効果を上げることができる活動である。

\*\*\*\*\*  
お二人の先生からの旬の情報をお送りしました。

読者のみなさん、このお二人の実践にコメントをお願いします。

また、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。4つのことについての情報をお待ちしています。どんな小さな事でもけっこうです。

情報を共有しましょう。

その1 6年生を送る会について

6年生を送る会の内容、送る会に向けてどのような取組みをしているか、送る会開催までの手順など

その2 お別れ会について

学年（学級）お別れ会の内容（プログラム）、お別れ会開催に向けての留意点など

その3 学級文集づくりについて

文集の内容、文集づくりのための役割分担、文集づくりの手順など

その4 係活動について

以下のアドレスまでよろしくをお願いします。

sugi-net@c-able.ne.jp

\*\*\*\*\*

---

4 中国学級活動ネットワークin米子 報告 その3

-----

中国学級活動ネットワークin米子1日目の午後からは、「明日からの学級づくりを考えるパート2」として、新潟県曾野木小学校 赤坂真二先生の「誰にでもできる学級活動～赤坂プラン～」が提案されました。

赤坂さんといえば、アドラー心理学を生かした子ども会議システムを提唱され、全国各地を飛び回って、その実践を伝え歩いているということで有名です。

そのキーワードは、タイトルにもあるように「誰にでもできる学級活動のプラン」です。何度聞いても飽きない、そんな独特の赤坂ワールドを会場いっぱいを作り出し、聞いている者を引きつけ、魅了していく技は一級品でした。

5単位時間を使って行うクラス会議の全容を、実際に赤坂学級で行われている事実をもとに話が進んでいきました。

ここで、赤坂さんの著書を紹介しておきましょう。以下のHPで確認してみてください。

<http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/List?cnt=1>

続いて「明日からの学級づくりを考えるパート3」として、仙台市立向山小学校 八巻寛治先生の「エンカウンター・シナリオロールプレイで、いじめに強い学級づくり」が提案されました。

八巻さんといえば、小学校の教員をしながら、上級教育カウンセラーや学級経営スーパーバイザーの肩書きを持っておられ、赤坂さん同様、カウンセリングの達人として全国を駆け回っておられます。今回は「いじめに強い学級づくり」をテーマに語ってもらいました。

八巻さんは、穏やかな語り口調でありながら、専門的な手法や技法をできるだけ一般化出来るようにと語ってもらいました。時間が十分になく、シナリオロールプレイというものを体験する時間がなかったのですが、エンカウンターの奥深さを教えてもらったように思いました。

私自身、構成的グループエンカウンターに対して半信半疑的な見方をしている部分があったのですが、八巻さんの話を聞いて、学級経営の中にエンカウンターの考えを生かしていくことの大切さが分かり、少しすっきりした気分になりました。

八巻先生は構成的グループエンカウンターや学級経営など様々なことをブログに書かれています。ぜひ一度寄ってみてください。

<http://edublog.jp/ktsn1213/>

赤坂さん、八巻さんの話は、実際に聞いてみるのが一番です。いつか山口でも赤坂講座、八巻講座を開きたいと思っています。また、先に述べましたように、お二人とも全国各地を飛び回っておられます。お近くに来られたときに、ぜひ聞いてみてください。

今回は、2日目の持ち込み実践を紹介します。

-----  
5 メルマガ編集部からのお知らせ  
-----

◆次号の予告◆◇◆

第26号は2月下旬ごろ発行予定です。

次号から、「係活動」について連載を始めます。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は131名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。

ご友人・お知り合いへの転送はご自由にどうぞ。その際は、全文を改変せずに転送くださいね。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆山口学級活動ネットワーク ホームページについて◆◇◆

過去のメールマガジンをホームページ上で見ることができます。

これまでは、号数からしか検索できていませんでしたが、このたび、内容から検索できるようにして欲しいという要望がありましたので、ホームページ担当の吉田先生が作り替えてくれました。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆ブログのお知らせ◆◇◆

学級づくりについて、特別活動の実践を絡めながら、チョット思ったことや考えたことを綴るブログを書いています。なかなか調子よく進んでいます。もし興味ある方はのぞいてみてください。

<http://edublog.jp/moomin/>

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====